第41号（2023年冬～2024年）

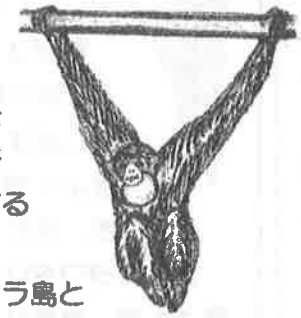
編集・発行　千葉市動物公園ボランティア

千葉市動物公園の見どころ7 セブンプラス

★それぞれの動物がいる場所はウラの地図をごらんください

① 当園名物、息の合ったデュエット
― フクロテナガザル ―

「ホウホウホウ」という大きな声が聞こえてきたら、それはフクロテナガザルの歌声です。オリがなくて見やすい池の中の島で、のどの袋をふくらませて鳴きかわすカップルが、足より長い腕でウンテイをつたって素早く移動する姿は、まるでショーを見ているよう。足でニンジンをつかみながら、器用に腕渡りする姿を見られることも。



野生ではマレー半島やスマトラ島という暖かい所にいるので、寒い日本の冬は小屋の中のヒーターをつけているそうです。エサは野菜、リンゴ、ゆで卵やヨーグルトつき食パンなど。２頭ともとても長生きで、オスのブレイブとメスのハートは30年以上仲良く暮らしています。ゴリラの向かいのオリにメスの茶々がいて、少し離れていますが、鳴きかわしてコミュニケーションをとることもあります。

②するどい目つき 精悍な姿
― オジロワシ―

ワシとタカのちがいを知っていますか？同じタカ目タカ科の鳥の仲間で、大きい方をワシ、小さい方をタカと呼びます。ワシは脚の下の方まで羽があり、タカの脚には羽がありません。

オジロワシはオスよりメスが大きく、つばさを広げると最大2.4メートルにもなり、日本に生息する鳥類でもっとも大きな体をしています。多くは冬が近づくとシベリアから越冬のため北海道に渡ります。絶滅危惧種に指定されているオジロワシを見ようと北海道ではバードウォッチングツアーが開催されますが、北海道まで行かなくても当園で貴重な姿を身近に見ることができます。

当園の２羽はオスとメスで、肉食の猛禽類ですからエサは鶏頭、ひよこ、魚のアジなどです。

③よく動く鼻でエサさがし
― アカハナグマ ―

鼻が赤いわけではなく、毛色が赤く見えるハナグマの仲間。90度くらい曲がる柔らかくて長い鼻と、地面を掘るために発達した前足が特徴です。生息地は中央アメリカから南米北部。野生では木の実やキノコ、昆虫、ネズミ等を食べ、園ではリンゴや煮たサツマイモ、ゆで卵、鶏頭、カイコ等を食べています。オスのヒカリとメスのピーチ、２頭とも好物は鶏頭だそうです。

耳を澄ますと、高い声でキュウキュウと鳴くのが聞こえることがあります。木登りも得意。飼育係さんは高い所や落ち葉の下などにエサをかくして退屈させないように工夫しています。朝一番や２頭が交代する昼過ぎには、かくしたエサをさがして食べる姿を見ることができます。

④小さいながらも 威風堂々
― ヒロハシサギ ―

中央アメリカに生息するサギの仲間で夜行性。園ではワカサギやアジ、オキアミを食べています。特徴は、名前の通り幅の広い独特な形をしたくちばしと、夜でも良く見える大きな目、そして背中まで伸びた黒い冠羽です。くちばしの形はハシビロコウに似ていて、求愛のときにはそのくちばしを打ち鳴らす「クラッタリング」をします。トキ・キジ舎にいるほかの鳥より体も小さく色も地味ですが、堂々と落ち着いた姿が魅力的。意外と人なつっこく、お気に入りの飼育員さんについて歩いたり、手からエサを食べたりするそうです。

じっとしていることが多く、どこにいるのか見つけにくいかもしれませんが、個性的な姿のヒロハシサギに会いに来てください。

★それぞれの動物がいる場所は下の地図をごらんください

⑤ヒツジとのちがいがわかるかな？
― ヤ　ギ ―

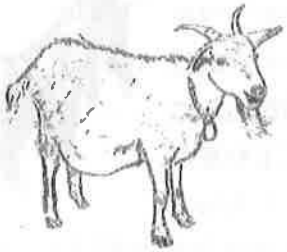
エコな除草法としてレンタルヤギが登場するなど、ヤギは今、人気上昇中の家畜です。ヒツジとどこがちがうでしょうか。

ヒツジはもっぱら毛を利用するために改良されてきたので、柔らかい毛が伸び続けますが、ヤギの毛は硬い手触りで一定以上伸びません。

ヤギのツノは後ろ向きに生え、ヒツジのツノはうずまき型。ただしどちらもツノの生えないものもいます。

ヤギにはアゴヒゲがありますが、ヒツジにはありません。ヤギの尻尾は短くやや上向きでよく動き、ヒツジの尻尾は垂れています。

ヒツジが柔らかい草しか食べないのに対し、ヤギは草のほか木の皮や実、枝などもOK。活発で高い所に登るのも好きです。



鳴き声は
ヤギはメェエェエェエェ
ヒツジはメーーーッ
「ふれあい動物の里」で
聞きくらべてください。

⑥熱帯雨林の奥深く、静かに暮す
― ボールニシキヘビ―
（ボールパイソン）

当園では２種のヘビが展示されています。身近に生息するアオダイショウとアフリカ中部に生息するボールニシキヘビ。どちらも毒はなくおとなしい性格です。

ボールニシキヘビはニシキヘビの中では小柄な方で、当園の個体は体長 1 メートル位、体重は 1850ｇほど。野生では小型ほにゅう類を食べ、園では１か月に１度ネズミを１匹与えています。

まぶたがないので目を閉じることがなく、用がなければじっとしているので、寝ているのか起きているのかわかりにくいです。目は薄い膜で保護されていて、脱皮するときには目の膜も一緒に脱げます。

おどかされるとボールのように丸くなるのでこの名前がついたそうですが、当園では大切に可愛がられているので丸くなるところはだれも見た事がないとのこと。皆さんもそっと観察してくださいね。「ふれあい動物の里」で展示されています。

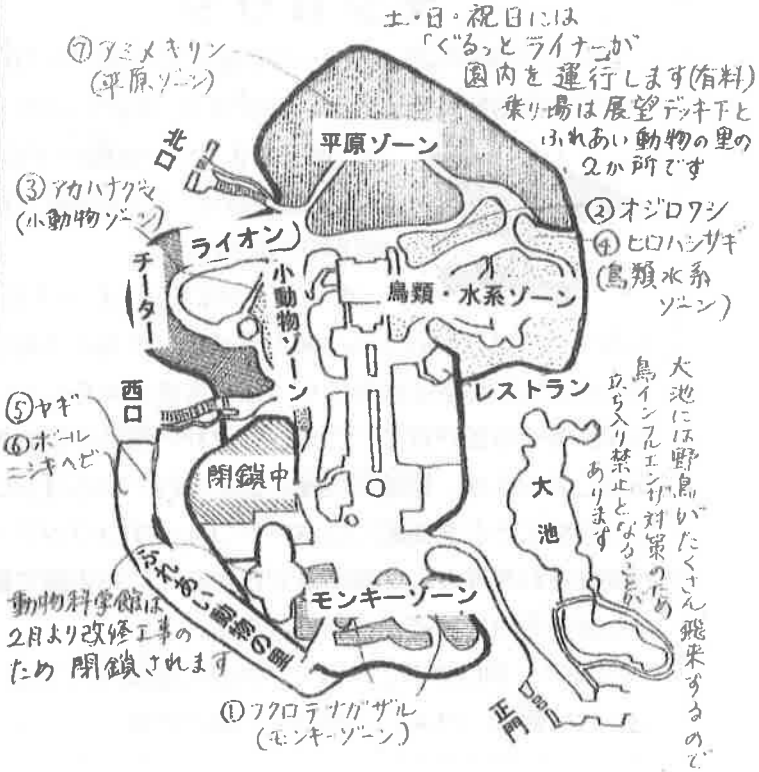
⑦はっぱをモグモグ、よくかんで食べる
― アミメキリン ―

東アフリカ大陸のサバンナに生息しているアミメキリン。

その長い首は、高い所の木の葉や実を食べるのに役立つほか、オス同士が争うときにぶつけあったりします。

胃が４つあり、ウシやヤギのように１度飲んだ食べ物を口に戻して噛み直す「反すう」をします。当園の２頭も首のあたり（のど）をよく見ていると食べ物が口から降りていき、また上がってくるのがわかるでしょう。

オスのヨウタは 2014 年茶臼山動物園から来て現在 11 歳。身長は４m50 ㎝ほど。性格はおとなしく人に慣れています。

メスのコノカは 2022 年宇都宮動物園から来てもうすぐ５歳。身長は３m40 ㎝ほど。ヨウタにくらべると少し臆病な性格です。

エサはヤマモモ、シラカシ、サクラ等園内の木の葉や生の牧草、マメ科の乾草、草食動物用のペレット（固形飼料）等。２頭は１日ごとに交代で展示場に出ています。